

現行のガイドラインの概要

東京都大規模イベント医療救護計画検討部会など、計6回の部会等での検討を踏まえ、平成21年4月に策定

【目的】

大規模イベントにおいて、観客に対する医療・救護計画を作成するための指針

【基本的な考え方】

- 原因ごと（自然災害・テロ等）に計画は細分化せず、多数傷病者発生時の基本的な医療・救護体制を構築するためのもの
- 大規模イベント時には、詳細な実施計画等を策定していく

【主な内容】

- 医療・救護体制**
 - 東京都本部や大会運営本部等の役割や連携方法
 - 医療救護所を観客数約1万席に1か所を目安に設置 等
- 医療救護資器材の備蓄**
 - 医療救護資器材の種類等（都が備蓄する災害用救急医療資器材に準じ配備）
 - 医療救護資器材の目安（総観客数の1% 例：5万人⇒500人分） 等
- 搬送体制・後方医療機関の確保**
 - 基本として、1会場ごとに1台救急車を配置
 - 多数傷病者発生時の収容医療機関を事前に指定して確保 等
- その他**
 - 特殊災害が発生した場合も考慮し、関係機関との連携体制を確保
 - 関係機関等との訓練を実施し、結果を検証してガイドラインを修正 等

今後の取組

東京都災害医療協議会に新たに「ガイドライン改定部会」を設置

【目的】

- 大規模イベント時の基本となる医療提供体制及び災害の原因別ごとの特性を考慮した対処要領について検討し、ガイドラインに反映
- 発災直後における医療機関との連携体制や情報の共有化、多数傷病者発生時の医療機関確保及び関係機関との情報共有等について策定

【開催回数】

年6回を予定

【主な検討内容】

- 大規模イベント時の基本となる医療救護体制
 - 関係機関の役割・連携、会場に配備する医療救護資器材
 - 搬送体制、医療機関の確保 等
- 災害原因別対処要領
 - テロ、群衆事故等への対処要領 等
- テストイベントの実施に向けた調整・オリパラ大会に向けた調整

【委員案】

都災害医療コーディネーター、地域災害医療コーディネーター、東京都医師会、学識経験者、東京DMAT指定病院、日赤、自衛隊、行政職員（東京消防庁・警視庁・区市職員など） 等

検討内容はテストイベントなどで検証し、必要に応じてガイドライン等の見直しを行う

課題

- 大規模イベント時の基本的な医療・救護体制を確保するために必要な取組等を記載しているため、現行のガイドラインをベースに原因ごとの特性を考慮した体制整備を図るのは困難
- 医療機関に対して災害発生の通知等の状況等の情報伝達のほか、発災直後の会場内と会場近接地における医療提供体制など、具体的な体制が明記されていない

スケジュール案

区分	平成29年度	平成30年度				平成31年度	平成32年度
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期		
オリパラ関係	対処要領（災害・治安）の策定	対処要領（災害・治安）の検証・見直し				ラグビーW杯 テストイベント	東京2020大会 (計3回実施)
福祉保健局の動き		改定部会の開催：6回 原因別に検討（搬送体制等）				必要に応じて改定部会で検討 テストイベント準備	テストイベントを踏まえたブラッシュアップ オリパラ大会の調整
		災害医療協議会 (部会設置の了承)	災害医療協議会 (報告)	災害医療協議会 (報告)	災害医療協議会 (報告)		